
借金 = 極楽！？

マイルー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

借金Ⅱ極楽!?

【Nコード】

N5745Z

【作者名】

マイルー

【あらすじ】

複雑な事情で借金2億を背負うことになった、今年高校3年生の学生、五十嵐努。

その複雑な家庭事情は、父がとても遊び人で、しかも金使いが荒く、拳句の果てには、交通事故でなくなってしまい、母と息子を残して他界。

母は一生懸命働いたが、返せる金額ではないので、息子一人残して

逃亡。

今年大学受験が控えているのに、借金を残されたまま父に先たたれ、母に逃げられ。

本人曰く「人生は山があるほど面白い」と、ポジティブシンキングある。

五十嵐努は、この最悪の事態から挽回することができるのだろうか？

全力疾走！！！！（前書き）

借金2億を背負った学生ってほんとにいますかね？？
もしいたら本当に悲惨なものです・・・。
いないと思いますがいたら・・・すみません。

全力疾走!!!

今宵はクリスマス、ところどころにイルミネーションがとてもキレイな街になっている。

恋人同士もそれを見て、「うわ〜きれい!」「ステキ」とか言っている。

街中にはサンタの格好をしている人がケーキを売っていたり、七面鳥を売っていたり、シャンパンなど・・・。

ようするに、金持ちが食べるもの。

貧乏人にはクリスマスは過ぎすなと言ってるようなものである。

俺は今年受験シーズン、勉強しなきゃならないのに遊んでばかりいる。

というか、遊びを開放してくれない。

「おごっご」という遊びに・・・。

「まてええー!!!クソガキ!!!体の一部どっかおいてけや!」

「勘弁してください!!!クリスマスプレゼントはムリです!!!」

「だったら今すぐ止まれええ!!!」

「だったら追いかけるのやめてくださいよ!!!」

といった具合のおごっご。

まさにリアルおごっごである。

つかまったら、当然食われる、

周りの人たちは、ポカーンとしたような顔でおにごっこを鑑賞していた。

とういうかだれか110しろ！

「ハア、ハア、け、警察呼びますよー！」

「呼んでみやあー！！お前の大事な部分吹き飛ばぞー！！」

恐ろしい・・・！！大事な部分つてどこ？

というかいつまで追いかけてくるんだ・・・！！

そろそろ限界に近いのに・・・横腹が痛い。

もう何キロ走っただろうか・・・軽く3キロは走っている。

人間必死になると、結構な距離が走れるものです。

「どんだけ追いかけるんですかあ！僕のこと好きなんですか！？」

と冗談を言ってみると・・・。

「・・・・・・・・・・。」

突然黙りだし後ろを見ると、借金鳥が少し顔が赤くなっていることに気づいた。

「・・・たぶん走ってるから、顔が熱いんだ！きつと！」

「・・・・・・・・・・。」

「なんか喋ってええー！！！！！！！！！！」

全力疾走！！！（後書き）

まあ大体こんな感じで話を進めて行きたいと思います！
みなさんこれからもよろしくお願いします！！

補習授業

12月25日の午前6時。

あまりにも寒すぎて目を覚ましてしまった。

冬の寒さはバカにならないもので、凍死にならないように10分寝ては起きてまた寝ての繰り返しだ。

クリスマスだというのに今日は学校の補習がある、まあ自分が悪いのだが……。

だがしかし学校はすこしは暖かいだろうから、俺的には嬉しい非難場所だ。

「しかし……クリスマスに俺一人で補習か……。」

学校側では俺が2億の借金を抱えていることなんか知らない。

嬉しいことに父が、「どうせこんなに借金があるから学校へのこれからの出費を全部払おう」

この一言で学校の出費がかからないわけだが……。

「学校にだれもないから……弁当はだれも持ってないか……。」

俺は食費に関してはすべて、学校の水道水、他人の弁当で生活している。

いい加減友達の目が痛い……。

ちなみに俺の服装は、制服にマフラー・・・これしか持っていない。おかげでとてもボロボロだ・・・。

俺はトボトボと学校に向かった、ここから徒歩1時間30分ぐらいで到着するから丁度いい。

そして学校に着き、教室に入っていく。ちなみに俺は3年6組だ。

「・・・誰かいる？」

そこには、一人の生徒がいた。

俺とは違いなんかのオーラを放っていた。

「あ。あの〜おはよう〜・・・。」

「ん？ああ、おはよう。」

その生徒は女の子で、髪は短く、背は150ぐらい？雪みたいな透き通った肌、瞳は吸い込まれそうだった。

そしてほんのすこしいニオイがした。

「え、えつと、キミはここの生徒じゃないよね・・・？」

「人数が少ないから、まとめてやるらしいよ、最も今日はキミと私だけだね。」

・・・二人きり??

これはフラグがたったか?そんな期待を持ってみたがそうでもなかった。

「・・・キミ少し臭うね。」

女の子は鼻をつまみ、とてもイヤな目で見ていた。

「悪いけど、席はすこし離れて座って。」

・・・見た目の割りには、ずいぶんとストレートに来る・・・。
心に大きな傷が・・・。

「キミって大バカだからクリスマスに補習に来たの・・・?」

この子は、全力投球で痛いところを・・・。
しかも顔がマジだし・・・。

「お、お前だって、バカだから・・・。」

「キミと一緒にしないでくれるかな?」

マジメな顔で俺の言葉をさいぎった。
そんなに俺の一緒じゃイヤか・・・！？
泣きたい・・・。

「私は自主的に来てるんだよ。」

「・・・彼氏がなくて、友達がない寂しい人ですか？」

「・・・本気で言ってる？だとしたら本気で救えないバカだね。」

・・・冗談が通じないらしい・・・。
しかも睨む顔がちょっと怖かった。

「私は2億男を追ってるんだよ。」

2億・・・どっかで聞いたことがあるような・・・とういつか俺だ。

「へ、へえ〜そ、それで？」

「私の父が借金取りやってるから、その手伝い。」

ま、まさか、あの・・・ホモ借金取りの娘！？

「その男は学生でね・・・本当に許せない・・・あれ？どこ行くの？」

「……ちょっと母が子供生まれるって……。」

「なんでわかったの？」

「テレパシー」

「そうか……キミが2億の借金男……五十嵐努君だね……。」

ば、ばれた！？なんで分かったんだ！！

こいつもテレパシーを！？

「本当にバカだね……舐めてる様にしか見えないよ。」

第2幕のおにごっこスタート！！

補習授業（後書き）

いわゆる修羅場ですかね？

男と女の微笑ましいおどろっっ

3年6組・・・教室内。今非常に重い空気が流れている。
補習の生徒かと思いきや、借金取りの娘だったのだ。

ここから逃げることは可能だけど、全力で逃げてしまうと男の名が
すたると言うもの。

相手は人間、しかも女の子、話し合えば今日は見逃してもらえるか
も・・・!

「さあ、早く2億返してよ。」

「そんな簡単に返せって言われても、俺はまだ学生だ！すぐに返せ
るわけないだろ!!」

「言っちゃった・・・!!」

男らしく!!これで女の子もすこしは怯み、考えも直してくれるだ
ろう。

まったく・・・キミとは借金のない状態で会いたかったよ・・・。

「・・・たしかにそうだね。」

彼女はすこし俯いたまま、ずっと考えこんでいた。

しばらくすると彼女はなにか閃いた表情でこちらを再び見た。

「ひとつだけ方法があるね。」

「え、ホント！？じゃあ今すぐその方法を教えてくれ！」

彼女はこちらみながらキラキラしたような笑顔で、決して冗談なんか微塵もない笑顔で。

「人身売買」

冗談であつてほしかった……でも冗談なんてついてない顔をしていた……。

大体予測はしてたけどさ……。人間って最後まで希望を持つじゃない……。希望が絶望に変わる瞬間ってとても悲しいんだよね……。

「ばいばい」

俺はその一言を残し、全力で逃亡！！

しかし彼女は全力で逃げている俺を全力で追いかける！！

1階に行つては2階、2階に行つては1階、ずっとその繰り返しだ。

「ガツチャン」

??なんだろ・・・この機械音みたいな音・・・なんか渋い音だ。
これは俺が大好きな音・・・どっかで聞いたようないい音だ・・・。

バキユン

・・・拳銃だった。

男の子ならだれも憧れる、黒光りをしていてとてもカッコいい形。
弾が下に落ちた音なんてもう最高だ・・・。
ちなみに俺はエアガンなら持つてる。

16

「ええええーーーー！！！！！！」

「次は当てるよ。」

「先生えーーーーー110番して！！銃刀法違反してる女の子がいる
！！」

そんな必死に声を出してることに気づかず、学校の校舎には俺の

声が響いていた。

これは死亡フラグですか・・・？

だれか教えてください・・・

俺は走るのをやめ、おとなしくつかまった。

「素直でいい子だね。」

「・・・はい。」

俺は自然に彼女の前で正座をしていた。

もう男のプライドはどうでもういい！！

命があれば・・・。

「人身売買以外にもひとつ選択肢があるよ。」

俺が喜びに満ちた顔でもう一つの選択肢を聞くと。

「うーんと、確かお父さんにつれて来てって言われたような・・・。」

「

どっちも最悪な選択だった。。。
俺に出された選択肢とは

- ・ 人身売買を引き受ける。
- ・ ホモも親父に突き出される。

究極の選択だった。。。

俺は耐え切れず、不覚にも涙がちよつと出てきた。

「でも。。まあ、家庭事情で借金だなんてねえ。。可愛そうかもね。。。」

彼女が少し哀れむような顔で俺を見ていた。。。

俺はひたすら下を向くしかない。

そしてしばらくした後、彼女は思いついたような声で俺に話しをかけた。

「キミ、私の道具にならない？」

。。。。道具？

それはどついつ意味だろうか。。。。？

しかし戸惑ってるヒマはない！！

「僕は、あなたの一生道具になります・・・。」

「決断が早いね、道具なんだからキミは私の役に立ってもらおうからね。」

あ・・・なんだそういう道具か・・・。

なんか残念な気持ち・・・

ていうか、俺はどういう道具を想像してたんだ？

「一回役に立つようなことをしたら100万、いいね？」

「ひゃ、100万!!!？」

「まあ値段もあるから、リスクが相当伴うけどね・・・。」

「いい!!!!いい!!!!もおう火の中、水の中!!!!」

「壊れたら捨てるからね、せいぜい壊れないように。」

壊れる・・・？

俺はどんなことをさせられるんだろうか・・・。

とても不安だが生きる希望の光が微かに見える！！
今日は最高のクリスマスだ！！！！

「あ、あの〜ちなみにお名前は・・・？」

「私は大神伊吹、よろしくね、五十嵐君。」

彼女は・・・大神伊吹は笑顔でそう答えた。

彼女の笑顔はあまりにも輝かしくて、不のオーラが纏まりついてる
俺とは全然違った。

「間違えた・・・道具君かな。」

彼女は恐らくドS、だって笑顔で道具だもんね。

この日クリスマス・・・生きる希望の代わりに人権が初めてなくな
った瞬間だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5745z/>

借金 = 極楽！？

2011年12月20日01時52分発行